

社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)レビューシート

団体名: 特定非営利活動法人NPO法人アジュール舎

訪問調査日: 2011年12月1日(木)

評価大項目(分類)	評価中項目	絶対評価コメント	達成率
I. 組織ミッション(社会的使命)と事業の推進	[1]組織ミッション(社会的使命)の確立	組織ミッションは定款や「事業案内」に明確に示されており、ホームページでも広く公開されている。非営利組織としての位置付けが「事業案内」や決算報告書からも確認できる。組織ミッションを達成するための公益的な基幹事業として、障害者自立支援法に基づいた「児童デイサービス」や、「アジュール心理発達相談室」「アジュール親子塾」等が円滑に運営されている。	20/24 達成率 83%
	[2]組織ミッションと事業の策定	中期的なビジョンは「アジュール舎中期事業計画(2012-2014)」において策定されている。単年度事業計画の策定状況が確認ができ、会員・スタッフに配布する等閲覧可能な状態が見受けられる。また、事業計画は、職員会議を通して会員やスタッフの声を拾い上げ、合意形成を図りながら策定されている状況を確認することができた。	
II. 組織と経営管理	[1]意志決定機関とガバナンス	理事は、精神科医や看護師等専門家等により構成され、年に2~3回理事会を開催している。総会は年に1回の開催状況が直近の議事録からも確認できる。「アジュール舎組織図」「アジュール舎業務一覧」等からもガバナンス体系が明確に確立し、示されている。運営上必要となるコンプライアンスの把握や法人内周知、研修への参加等の取組みが見受けられる。法人の経営環境は適切に把握・管理されており、公認会計士による内部監査が実施されている。	33/43 達成率 77%
	[2]適切な財務計画と執行・管理	経営計画書は策定されていない。収入の大部分は制度事業収入が占めており、多様な財源確保に課題認識がある。納税等は納税証明書からも適切に行われている状況を確認できる。	
	[3]職員と労働環境	就業規則・給与規定等必要な規定が整備されている。退職金制度を設け、法定福利厚生外の取組みが見受けられる。雇用形態別に就業規則を整備し、適切な労働環境の構築に努めている。	
III. 事務局の執行体制と管理	[1]組織・事務局体制の確立	火曜一土曜(8:45~17:45)の事務所機能は明確であり、決められた時間帯において、いつでも電話・来所対応が可能になっている。登記事項の更新、所轄庁への報告等、必要な手続行われており、事務所に保管されている状況を確認できる。	24/31 達成率 77%
	[2]会計全般	経理に関する管理規定は策定されていないが、慣例的なルールに沿って適切に処理が行われている。専属の社会保険労務士がおり、必要に応じて税理士・公認会計士のアドバイスを受ける体制がある。	
	[3]事業を推進するための体制やルール	単年度事業計画に基づく事業の推進状況が見受けられる。事業の執行状況は、ホームページでも公開し報告している。稟議書等組織決裁ルールの設定は確認できるが、運用に課題が見受けられる。「市民講座」参加者に対してアンケートを実施する等、評価を受けた実績が確認できる。	
IV. 社会資源の活用	[1]社会資源(企業/行政/市民など)の連携と活用	事業案内パンフレットやホームページで「行事ボランティア」の募集を行っている。京都大学総合人間学部の研究フィールドと協働し、実践発表を行っている。東日本大震災被災地支援の取組みで現地のNPOとの連携実績を確認することができた。京都府の「地域力再生事業」や「緊急雇用対策事業」等の協働実績が、事業報告書からも確認できる。地域住民から物品の寄贈状況が確認でき、地域に支えられた事業所の運営環境が見受けられる。	11/16 達成率 69%
V. 情報の公開と社会的信頼	[1]情報の公開	「事業案内」パンフレット、ホームページ等で、組織の基礎情報を公開し、事業報告等フォロー情報に関しても適切に更新し、公開に努めている。	16/18 達成率 89%
	[2]第三者による評価	「児童デイサービス」等制度事業を実施する他、民間財団からの助成実績も確認できる。城南新報や洛南タイムス等地域の新聞をはじめ、多様なメディアによって紹介された状況を確認できる。	
VI. 組織のリスクマネジメントと社会的責任の追求	[1]組織のリスクマネジメント	重要書類は施錠できる棚で保管し、デジタルデータについては「デジタルデータの持ち出しについて」規定で管理している。緊急時の対応については、「リスク管理マニュアル」を作成し、スタッフおよび利用者にも周知している。	9/18 達成率 50%
	[2]組織の社会的責任の追求	会長が「臨床心理学会」や他NPOの会員として活動している。環境に配慮した具体的な取組みやその評価は確認できない。	
【相対評価(セルフレビュー)／総括コメント】 当法人では、子ども、障がい、ジェンダーを視座にした各事業を多角的に取り組んでいます。特に、「児童デイサービス事業(ころぼくく)」は、常勤スタッフを雇用し、心理発達臨床の専門性を活かした療育を行い、並行して1対1の学習支援事業も行っています。また、地域に根ざした「情報交流スペース事業(すぶりんぐ)」として、市民講座の企画実施、ギャラリー展示や子ども文庫を設け、市民がつながり、考え、実践する場(トポス)を提供しています。 事務局は、「子どもの視点」、「チャイルドファースト」を原点に、常に一人ひとりが自立を志向しつつ、互いに支え合い、共に生きる社会(インクルーシブ社会)を目指し、各事業の実施と連携を円滑に行うための中核として、臨機応変に対応しています。各スタッフ間の連携が上手にいくように、朝礼や職員会議は、運営の中心としてスタッフの拠り所かつ組織の要として機能しています。 小学生やそれ以降の青年期も視野に、子どもの成長段階に応じた、学習支援や生活支援、相談事業の展開が課題となっています。東日本大震災では、非常時においてこそ子ども支援の必要性を発信し、地域の住民におもちゃの寄付を募り、被災地に贈る活動を行い、今年で第2回目の横島子どもフェスタ(11月3日)を開催し、今後地域に根ざした恒例の子どもまつりに育てています。 人の営みの多様性と、つながりを地域社会の中で実現することを目指し、今後も長期展望をもって事業を展開し、子ども支援を中心に、親や地域住民ともつながったソーシャルアクションを実施して公と民が協働して能力に応じて働き、必要に応じて配分する社会システムの構築を実践を行います。 本法人の名称「アジュール(Asile)」とは「自らに与えた課題に自由に取組む場＝自治区」を意味し、法人の第1番目の理念として位置付けられています。障害者自立支援法に基づいた制度事業(児童デイサービス)を運営する他、専門性を活かした「心理発達相談」事業や学習に特別なニーズのある子どもたちやその保護者を対象とした「アジュール親子塾」等、法人のミッションに基づいたインフォーマルサービス(制度外事業)もNPOらしくバランスよく運営されています。事業所は、地域の方々の理解に支えられて運営されている状況を確認することができ、地域の重要な資源として機能している状況が伺えますので、本社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)において認証しました。			113/150 総合達成率 75%

